

田原城の石垣(一)

旅の楽しみの一つに、訪れた町の歴史に触れることがあります。神社仏閣は言うに及ばず、やはり一番は、城跡の訪問ではないでしょうか。城のイメージといえば、天守閣、白壁、水堀、石垣で、これらを見ると封建社会の権威を感じるとともに、当時の土木、建築技術の素晴らしさや造形的な美しさに感動します。

しかし、このイメージを満足させる城はごくわずかで、天守閣はもちろん、石垣、水堀がある城は、愛知県でもそう多くはありません。大半は素掘りの堀と、その土で土塁を造った戦国時代の城ばかりです。

江戸時代の城は軍事施設である一方、封建社会権力の象徴でもあります。その象徴として私たちがイメージする天守閣、水堀、石垣は恰好の仕掛けでした。特に人間の石に対する思い入れは強く、原始時代の石器から始まり、恒久的な記念物(石碑・墓石)や構造物に石が使われていることからわかります。城の石垣は単なる土留めの役割としてだけでなく、人間の心をひきつけるモノユメントでもあります。

豊橋の吉田城は、大半は土造りの構造ですが、田原城と同様に、門・櫓・周など、人目につく場所だけ石垣を積んでいます。このことから石垣の存在意義を見て取れます。

さて、田原城には天守閣はありませんが、近世の城を特徴づけるさまざまな仕掛けがあります。田原中部小学校の前の道が大手道です。これを田原城跡に向かって真つすぐ進んでみると、現在は建物の陰に隠れています。往時は前方の高石垣の上に巡る白壁塀と、やや西に桜門と二ノ丸櫓が見えていたことでしょう。あえて本丸に櫓や天守



●大手道から望む桜門と二の丸櫓

閣を造らなくても、二ノ丸櫓の位置で充分な視覚的威圧感を与えます。大手道を突き当たると、石垣で囲まれた水堀があります。吉田城でも、こ



●L字に曲がる堀(写真奥で左に曲がっている)

のような光景は見ることができません。この小さな城でこのような堀が見られることは驚きです。

ところで、大手道から大手門に相当する桜門へは真つすぐ入ることが出来ません。少し西にずれています。これは恐らく城を守るために敵がまっすぐ入れない工夫と、一番見栄え良く、威圧感を与えるようにと、大手道と城の大手門(桜門)をずらしたためでしょう。よく見ますと、水堀は東方向に屈曲し、途中で切れていて城の周囲を囲っていません。それは、堀の東側が台地の裾部分で、堀よりさらに低く、一周させることができなためです。それでもL字にしたのは、水堀を長く見せるための視覚的な仕掛けでしょう。

▽田原町博物館 22局1720

今月の表紙 COVER STORY

鼓動が高まり、のどが乾く。全身の血が逆流するようなその感覚は容赦なく私たちを襲う。「プレッシャー」▽日常生活はプレッシャーの宝庫。仕事で、学校で、スポーツで…。緊張感から時には実力を発揮できないこともありませよ。こうして緊張状態を引き起こすのは、脳内で分泌されるアドレナリンが原因。でも、適度な緊張は脳や筋肉を活発にするため、歓迎すべきものだそうです。ただし、アドレナリンは猛毒物質。「怒り」や「イライラ」によっても多量に分泌されるそうですから、ストレスをためない工夫が肝心ですね。アドレナリン過多では、人と人、さらには国と国との関係もギクシャクしてしまいます▽プレッシャーを乗り越えて何かを成し遂げたときの達成感、きつと何ものにも代え難いものではない。写真・早朝や夜間の厳しい訓練は、プレッシャーに打ち勝つ力を彼らに与えてくれたのかも(しれません。)

【人口と世帯数】

総人口	36,875人	
男性	18,830人	
女性	18,045人	
世帯数	11,542世帯	
出生	28人	死亡 23人
転入	119人	転出 71人
増減	53人	

(平成14年10月1日現在・増減は9月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)